

事務事業評価シート (評価対象年度：令和 元 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		埋蔵文化財センター施設維持管理事業				②事業番号		7617			
③事業類型		4. 施設等維持管理事業		④開始年度		平成 9 年度		⑤終了予定年度		年度 ○ 設定なし	
⑥根拠法令等		法令 ○ 条例 ○ 規則		要綱		計画等		その他		法令等の名称	
⑦実施手法		直営		全部委託 ○ 一部委託		補助・負担		その他		泉南市埋蔵文化財センター条例等	
⑧関連予算科目コード		款 9		項 5		目 10		細目		4	
⑨担当部名		⑩担当課名						会計		一般会計	
教育部		生涯学習課									

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
①埋蔵文化財センター		①施設数		棟	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
埋蔵文化財センターの施設維持管理として、浄化槽維持管理、清掃、電気工作物保安、警備、エレベーター保守、ごみ収集、消防点検、受水槽清掃の各業務を外部委託し、定期的な点検等を行っている。 設置後20年以上経過していることから、経年劣化による不具合や、型式失効(メーカー推奨交換時期)をむかえた設備は、補助金等の財源確保に努めつつ修繕を行っている。		①修繕箇所		箇所	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
当該設備を安全かつ快適な環境に保つことで、設備の長寿命化をめざし、市民に歴史的環境に触れる場と機会を長期的に提供できる環境を整える。		①利用者の事故件数		件	
		②			
		③			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
歴史的資産を活用し、まちの風土や歴史的資産への関心を高めることで、新たな文化創造の機運醸成が見込まれる。 結果的に、(1)-(5)-(1)-(1)文化財の把握と公開と、(1)-(5)-(1)-(2)文化財の保存と活用にもつながる。		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
		施策大(節) 5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします			
		施策中 1 歴史的資産の活用			
		施策小 3 歴史的環境に触れる場と機会の充実			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	
対象指標①	施設数	棟	1	1	1	1	1	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	修繕箇所	箇所	2	2	3	4	3	
活動指標②								R1は浄化槽ポンプ、消防設備、電動シャッターを修繕。 R2は、消防設備、浄化槽を修繕予定。
活動指標③								
成果指標①	利用者の事故件数	件	0	0	0	0	0	
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人			0.95	0.95		
	任期付職員	人			0.00	0.00		R2は設備修繕により増額(+3,206千円) その他特定財源のうち、水なす基金からの繰入金。(500千円)
	臨時職員	人			0.40	0.40		
	事業費				7,994	7,994		
	人件費(投入人員*単価)	千円			5,176	9,333		
財源内訳	直接事業費	千円			13,170	17,327		
	総事業費	千円						
	国庫支出金	千円			0	1,914		
	府支出金	千円			0	0		
	受益者負担金	千円			0	0		
その他特定財源		千円			635	60		
	一般財源	千円			12,535	15,353		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	市内の埋蔵文化財を保護し、それらの調査・研究・整理・保管及び文化財の普及啓発をおこなうため、平成9年に設置されたことによる。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	設置以来、20年近くが経過し、施設の一部老朽化が進んでいる。今後、修繕に係る費用の増加が予想される。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	各施設の設備などについて確認し、修繕を実施した。

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	利用者の安全を確保することで、歴史的環境に触れる場と機械の充実が図られるため。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	重要文化財保管施設であり、文化財の調査事務所であるため。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	市民ニーズを重視し、市民に対して多面的(事業の共同実施やアウトリーチ、事業への参画など)な利用形態を用意している。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	市民への歴史情報の提供が損なわれるだけではなく、埋蔵文化財の保管場所として活用が制限されるため。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

B

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	文化財の普及啓発および、埋蔵文化財の調査・研究・整理・保管のための施設は有効に活用されているが、設置当初に比べて大幅な職員減によって余剰スペースが生じている。しかしながらこれらを活用するためには現在の職員数では困難である。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	現状以上のコストダウンは施設の維持管理が困難となり、利用者に安全快適な環境を提供できない。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	市内各施設に共通する管理委託を一括発注することにより委託料の引き下げは可能かもしれない。

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価

A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	埋蔵文化財にかかる事務の広域化により、人件費の削減と施設管理の財源確保が見込まれる。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	入館料の徴収とは異なる受益者負担の仕組みを検討中。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	将来的には経年劣化が進むと予測されることから、今後見込まれる修繕等にともなう財源の確保が必要である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで)	エ. 休止 ↓ (年から)	オ. 廃止 ↓ (年から)
	↓ <今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など		財源の確保。 ・埋蔵文化財発掘調査事業の広域化に伴う施設使用料徴収。 ・講堂及び会議室の施設使用料徴収。			
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		現在、課題の把握も含めて協議中。			